

エゼキエル書38-39章 「イスラエルを貪るゴグ」

1A イスラエルを喰らうゴグ 38

1B ゴグの侵略 1-16

1C ゴグの全軍勢 1-6

2C 安心して住む民 7-9

3C 家畜と財産を持つ民 10-16

2B ゴグへの怒り 17-23

2A 神に喰われるゴグ 39

1B 倒れるゴグ 1-10

1C 立ち向かわれる主 1-7

2C 武器を焼却する住民 8-10

2B 死体処理 11-20

1C 埋められる谷 11-16

2C 鳥獣への捧げ物 17-20

3B 主を知る民 21-29

本文

エゼキエル書 38 章を開いてください。私たちは、イスラエルを神が回復させる第三段階に入っています。36 章において、主が土地を回復されました。37 章において、主が国を回復されました。そして 38-39 章においては、主は安全を回復されます。土地があり、国があっても、敵から攻撃されることがあっては、その苦しみは続きます。主が彼らの敵を壊滅せしめることによって、彼らの安全保障を回復させます。

私たちは、近現代においてこれらの預言が成就しつつあることも見ていっています。イスラエルの地に十九世紀終わりからユダヤ人が帰還しました。そして 1948 年にイスラエルが建国されます。しかし、彼らは何度となく、戦争を経験してきました。建国直後の独立戦争、シナイ作戦、そして有名な 1967 年の六日戦争、そして 1973 年のヨム・キプール戦争です。その後も、PLO やヒズボラ、ハマス等の過激組織からの攻撃があり、現代に至っています。彼らにとって、安全保障は水のように貴いものです。

思えば、イスラエルの歴史そのものが、敵からの救いの歴史です。エジプトにおいて奴隷状態であったところから、救われて民族になりました。そして、約束の地においてはカナン人の王たち、士師記においてはペリシテ人、モアブ人、カナン人、ミデヤン人などが彼らを虐げました。そしてダビデの時には、アモン人、ペリシテ人、アラム人、エドム人、モアブ人などから攻撃を受け、その度

に主により頼み、勝利していきました。彼らにとって、戦いに勝つことそのものが救いであり、私たちキリスト者にとっては、魂に戦いを挑む悪魔に勝つことが救いがあります。主が悪魔を滅ぼし、その戦いを終わらせてくださる時に、新天新地が来て、新しいエルサレムに住むことができます。

1A イスラエルを喰らうゴグ 38

1B ゴグの侵略 1-16

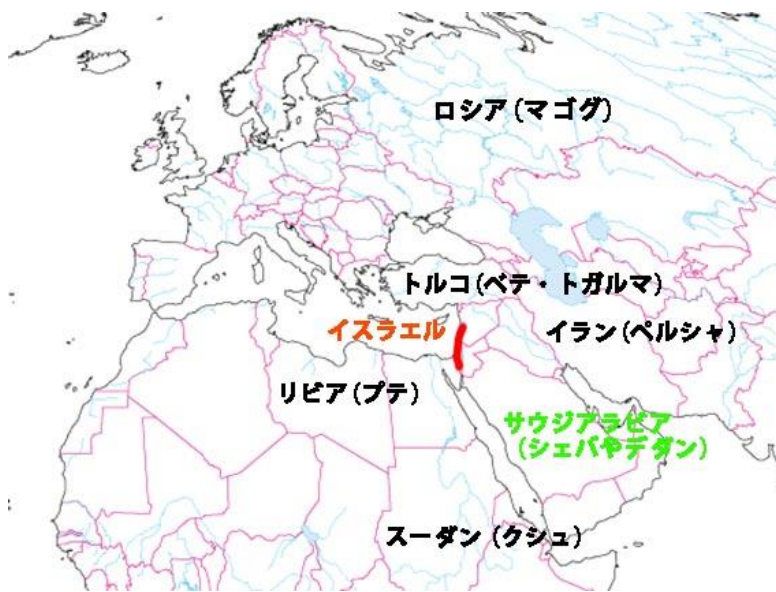
1C ゴグの全軍勢 1-6

38:1 さらに、私に次のような主のことばがあった。38:2 「人の子よ。メシェクとトバルの大首長であるマゴグの地のゴグに顔を向け、彼に預言して、38:3 言え。神である主はこう仰せられる。メシェクとトバルの大首長であるゴグよ。今、わたしは、あなたに立ち向かう。38:4 わたしはあなたを引き回し、あなたのあごに鉤をかけ、あなたと、あなたの全軍勢を出陣させる。それはみな武装した馬や騎兵、大盾と盾を持ち、みな剣を取る大集団だ。38:5 ペルシヤとクシュとプテも彼らとともにおり、みな盾とかぶとを着けている。38:6 ゴメルと、そのすべての軍隊、北の果てのベテ・トガルマと、そのすべての軍隊、それに多くの国々の民があなたとともにいる。

エゼキエルの預言の中に、いきなり「メシェクとトバルの大首長であるマゴグの地のゴグ」なんていう名前が出て来ます。ゴグという人物が首謀者です。彼は「マゴグ」という地の王のような存在です。「大首長」と訳されている言葉は、固有名詞で「ロシュ」と訳すこともできます。イザヤ書 66 章 19 節に他の国々に並んで、ロシュの名前が七十人訳で出て来ます(66:19)。そして、ゴグと連携して、ペルシヤ、クシュ、プテが出陣し、またゴメル、ベテ・トガルマも参戦します。その他、多くの国民が共に来ます。

これらの国々の特徴は、多くが 6 節にあるように、「北の果て」からだということです。イスラエルから見て北の果てであります。「マゴグ」は黒海とカスピ海の間、その北に広がる地帯だと言われています。そして、メシェク、トバル、またゴメル、トガルマはみな、創世記 10 章によるとヤベテの子孫であることが分かります。つまり、欧州、ギリシヤ系の人々です。マゴグには、スキタイ人またはスクテヤ人がいたと言われています。コロサイ書には、「未開人、スクテヤ人、奴隷と自由人というような区別はありません。キリストがすべてであり(3:11)」とありますが、スクテヤ人は未開人あるいは野蛮人と並んで使われていました。ここに馬や騎兵、盾を持っているとありますが、騎馬民族国家であります。これらが今、どこかと言いますと、ロシアとかつて旧ソ連邦であった、「～スタン」と名の付くイスラム教の諸国です。そしてイスラム教では、万里の長城がマゴグの壁とみなされていて、そこまでスクテヤ人がやって来たと言われています。ロシュもまた、マゴグと似たような地域、すなわちロシアです。そして、「メシェクとトバル」はマゴグの南、カスピ海と黒海の間辺りにあったと言われています。ですから、ロシアとその周辺地域と大きく重なっています。

それから、「ゴメル」と「ベテ・トガルマ」はトルコにあった国々であったと言われています。ある



人々は、「ゴメル」はさらに北、ドイツあるいはゲルマンの語源になっているということでドイツではないかという人もいます。ですから、トルコが関わっています。そして「ペルシヤ」が出て来ます。ペルシヤは今のイランです。イスラエルにとっては、東の果てです。さらに、「プテ、クシュ」が出て来ますね。これらは北アフリカです。プテはリビア、それからクシュはスーダンとエチオピアです。¹

この国々の多くがすでにエゼキエル書に出てきています。27 章に、世界を相手にして貿易をしているツロの町の交易相手として、ベテ・トガルマ、トバル、メシエクが出てきて、また後で出てくるタルシシュも出てきます。そして 32 章、エジプトがバビロンに倒されて、陰府に下った時にそこには既にメシエクとトバルがいました。そこに剣で刺し殺された勇士たち、恐怖を巻き起こした者たちとして出ています。ですから、世界的規模、イスラエルを攻めようという動きがここエゼキエル 38 章なのです。

興味深いのは、イスラエルに隣接する国々がここに出てこないことです。エジプト、ペリシテ、エドム、モアブ、アモン、アラムなど、またバビロンも出て来ません。これまで敵対していた国々がないのです。おそらく、これらの国々とは戦いを既に終えていて、その後でイスラエルが平穏を保っている状態であると考えられます。詩篇 83 篇に、周辺諸国との戦いの様子が預言されています。イスラエルの名を消し去ろうとしますが、かえって彼らが神から裁きを受けます。またイザヤ 17 章には、シリアの首都ダマスコが廃墟となるという預言、19 章にはエジプトが女のように弱くなって、救い主を求め、アッシリヤと同じように主を求めるところとなることが預言されています。これらの国々が含まれていないということが大事で、つまり「地の果てから」やって来る軍勢ということです。

このように詳しく調べましたが、この幻と今の中東情勢の力関係があまりにも酷似しているのが驚きます。ロシアが中東地域に地歩を固めました。イランとは軍事同盟を結んでいます。トルコはイスラム化し、強権的な地域大国となりました。今、シリア内戦が去年の末に休戦しましたが、そこに関わっているのはロシアとトルコ、そしてイランです。イスラエルの目の鼻と先にまで、これらの勢力が近づいてきているのです。そしてかつては宿敵であった、エジプトとはこれまで以上に

¹ <https://biblelove.jimdo.com/> 中東情勢/

仲が良いということはありません。共通の敵がおり、イランそしてイスラム国です。ヨルダンとも平和条約を結んでいます。そしてシリアは内戦で力を失い、イスラエルと交戦する気は全くありません。そして後で、シェバとデダンが出て来ますが、サウジアラビアです。イスラム原理主義国であり、イスラエルとはもちろん敵対関係にあります。しかし、今はイランとイスラム国と対峙しており、水面下では協力体制を取っています。こうやってエゼキエルが見た幻が、まるで今の中東情勢とそっくりなのです。

2C 安心して住む民 7-9

38:7 備えをせよ。あなたも、あなたのところに集められた全集団も備えをせよ。あなたは彼らを監督せよ。38:8 多くの日が過ぎて、あなたは命令を受け、終わりの年に、一つの国に侵入する。その国は剣の災害から立ち直り、その民は多くの国々の民の中から集められ、久しく廃墟であったイスラエルの山々に住んでいる。その民は国々の民の中から連れ出され、彼らはみな安心して住んでいる 38:9 あなたは、あらしのように攻め上り、あなたと、あなたの全部隊、それに、あなたにつく多くの国々の民は、地をおおう雲のようになる。

ゴグが行動を開始するのは、イスラエルの民が既に帰還して、そこに住み着き、安心して住んでいるという時です。私たちの国日本は、第二次世界大戦後、ずっと平和を保っていますから、実感が湧かないかもしれませんが、今のイスラエルは建国以来の平和を保っています。先にお話ししましたように、建国宣言直後に周辺アラブ諸国から一斉攻撃を受けて、そうした中東戦争が 1973 年まで続きました。その後は、過激派組織によるものですが、散発的なテロ事件が起こるのみです。今もちろん、緊張はあります。しかし、これまでのような大規模な紛争は起こっておらず、彼らにとっては最も安全になっていると言えるでしょう。

3C 家畜と財産を持つ民 10-16

38:10 神である主はこう仰せられる。その日には、あなたの心にさまざまな思いが浮かぶ。あなたは悪巧みを設け、38:11 こう言おう。『私は城壁のない町々の国に攻め上り、安心して住んでいる平和な国に侵入しよう。彼らはみな、城壁もかんぬきも門もない所に住んでいる。』38:12 あなたは物を分捕り、獲物をかすめ奪い、今は人の住むようになった廃墟や、国々から集められ、その国の中心に住み、家畜と財産を持っている民に向かって、あなたの腕力をふるおうとする。

ゴグがなぜ、イスラエルに侵攻するのか？それは、分捕るためです。そこにある家畜や財産を持っているから、それをかすめ取りたいと願うから攻め入ります。イスラエルは豊かな国になりました。農業技術が発達し、医療技術、そしてITは世界有数です。死海には鉱物が数多く取れます。先進国の仲間入りを果たしています。交通網も整備されています。そして最近、とんでもないことが起こりました。石油が発掘されたことです。イスラエルの沿岸の地中海沖に巨大な油田が見つかっています。イスラエル経済は、その社会の中で格差が生まれ、また物価が上昇し、大きな課題を持

っていますが、全体としては右肩上がりであり、順調であります。ですから、それをロシアなどが欲するというのは十分考えられるシナリオです。

38:13 シェバやデダンやタルシシュの商人たち、およびそのすべての若い獅子たちは、あなたに聞こう。『あなたは物を分捕るために来たのか。獲物をかすめ奪うために集団を集め、銀や金を運び去り、家畜や財産を取り、大いに略奪をしようとするのか。』と。

シェバやデダン、またタルシシュは、ツロに対する預言の時に貿易の相手国として出て来た国々です。それで、ゴグの行なっていることに抗議しているのですが、何の力も持っていません。シェバやデダンはサウジアラビア、そしてタルシシュはスペイン北部と言われています。イスラエルの敵であったサウジアラビアは、今はもはや敵ではなくなっています。そしてタルシシュですが、「若い獅子」は「植民地」と訳すこともできます。アメリカ大陸を発見したのが、タルシシュ出身のコロンブスです。中東においてのアメリカの力がかなり弱まる、というのが聖書から見える将来です。

38:14 それゆえ、人の子よ、預言してゴグに言え。神である主はこう仰せられる。わたしの民イスラエルが安心して住んでいるとき、実に、その日、あなたは奮い立つのだ。38:15 あなたは、北の果てのあなたの国から、多くの国々の民を率いて来る。彼らはみな馬に乗る者で、大集団、大軍勢だ。38:16 あなたは、わたしの民イスラエルを攻めに上り、終わりの日に、あなたは地をおおう雲のようになる。ゴグよ。わたしはあなたに、わたしの地を攻めさせる。それは、わたしがあなたを使って諸国の民の目の前にわたしの聖なることを示し、彼らがわたしを知るためだ。

主が、ゴグが一斉に侵攻するのを許されるのは、ここにある目的、「諸国の民の目の前にわたしの聖なることを示す」ためであります。主が比類なき方、他の被造物から隔絶しておられる方、この方には過ちが何一つない方として現れるために、このことを行われるということです。世界の多くの人が、主の御名を何でもないようにみなしています。しかしペテロがサンヘドリンで説教したように、「この方以外には、だれによっても救いはありません。世界中でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名としては、どのような名も、人間に与えられていないからです。(使徒 4:12)」なのです。次から主が行なわれる出来事によって、世界中の人々が主の御名を恐れるようになります。

2B ゴグへの怒り 17-23

38:17 神である主はこう仰せられる。あなたは、わたしが昔、わたしのしもべ、イスラエルの預言者たちを通して語った当の者ではないか。この預言者たちは、わたしがあなたに彼らを攻めさせると、長年にわたり預言していたのだ。

聖書の預言の中には、ゴグに対する預言はここだけです。けれども、ゴグが行なおうとしている

原型は至るところで見ることができます。午前礼拝で話しましたように、出エジプトもそうです。そして数々の預言者が、イスラエルが多くの国々に取り囲まれて、攻められようとしているところを主が救い出してくださることを約束したことを見ることができます。

ここで質問が出て来ます。「ゴグとマゴグの戦いは、いつ起こるのだろうか？」ある人は、黙示録 20 章で、千年王国の終わりにゴグとマゴグが出て来るので、その時のものではないか？と言います。けれども 39 章の終わりを読むと、この出来事の後にイスラエルの民が最終的に完全に帰還して、御霊が注がれるとあります。千年王国では、イスラエルの民は完全に靈的に回復していませんから、その前でないと整合性がありません。千年王国の終わりに起こることは、ゴグとマゴグというここでの戦いが、一つの型として、象徴的な出来事として使われています。ちょうど、天下分け目の戦い、関ヶ原の戦いを私たちはいろいろな類似した場面で使うように、です。

では、ハルマゲドンの戦い、主が再臨される時の戦いなのか？という疑問が次に出来ます。そうかもしれません。ある人たちは患難期の半ば、そしてある人たちは、患難期が始まる前、携拳の後であると言います。そして携拳の前に起こることだ、と言う人たちもいます。私は、どれかは分からないのですが、しかしその兆しがあるということが大事でしょう。私たちの待ち望むのは、ゴグとマゴグの戦いではなく、主イエスの到来です。ですから、この方が来られることがますます近づいているということを、この出来事を通して感じ取っていくことが大事であります。

38:18 ゴグがイスラエルの地を攻めるその日、**神である主の御告げ**。わたしは怒りを燃え上がらせる。38:19 わたしは、ねたみと激しい怒りの火を吹きつけて言う。その日には必ずイスラエルの地に大きな地震が起こる。38:20 海の魚も、空の鳥も、野の獣も、地面をほうすすべてのものも、地上のすべての人間も、わたしの前で震え上がり、山々はくつがえり、がけは落ち、すべての城壁は地に倒れる。38:21 わたしは剣を呼び寄せて、わたしのすべての山々でゴグを攻めさせる。**神である主の御告げ**。彼らは剣で同士打ちをするようになる。38:22 わたしは疫病と流血で彼に罰を下し、彼と、彼の部隊と、彼の率いる多くの国々の民の上に、豪雨や雹や火や硫黄を降り注がせる。38:23 わたしがわたしの大いなることを示し、わたしの聖なることを示して、多くの国々の見ている前で、わたしを知らせるとき、彼らは、わたしが主であることを知ろう。」

主は、ご自分の愛するイスラエルに対して、それに触れるものであれば、大いに怒り長けります。主は怒りの神であり、妬みの神です。これは愛されている者に誰か触れるなら、卑しめ、貶めるときに抱く怒りであります。自分の愛する彼女に、誰か他の男が襲ってきたら、どんな手段を使っても彼女を助ける、妬みと憤りに似ています。主が私たちをも、そのようにして愛しておられます。

そして主が初めに行われるのは、大きな地震です。これで、世界中の人々が驚きます。そしてゴグの陣営の中で混乱をもたらされます。彼らは同志討ちによって剣をそこにもたらされます。さら

には、疫病と流血をもたらされます。そして最後に、豪雨や雹、火や硫黄を降り注がれます。これまで主が地上に下された裁きと、大きく重なりますね。ソドムに対する神の裁きは、火と硫黄でした。主がエジプトに対して行なわれたのは、雹や火でありました。そして、ギデオンがミデヤン人を倒した時は、同士討ちをさせました。そして大地震が、黙示録で何度も出て来ます。

2A 神に喰われるゴグ 39

そして主は、39章において徹底的にゴグを裁かれる姿を生々しく描いていきます。

1B 倒れるゴグ 1-10

1C 立ち向かわれる主 1-7

39:1 「人の子よ。ゴグに向かって預言して言え。神である主はこう仰せられる。メシエクトトバルの大首長であるゴグよ。わたしはあなたに立ち向かう。39:2 わたしはあなたを引き回し、あなたを押しやり、北の果てから上らせ、イスラエルの山々に連れて来る。39:3 あなたの左手から弓をたたき落とし、右手から矢を落とす。39:4 あなたと、あなたのすべての部隊、あなたの率いる国々の民は、イスラエルの山々に倒れ、わたしはあなたをあらゆる種類の猛禽や野獣のえじきとする。39:5 あなたは野に倒れる。わたしがこれを語るからだ。・・神である主の御告げ。・・39:6 わたしはマゴグと、島々に安住している者たちとに火を放つ。彼らは、わたしが主であることを知ろう。39:7 わたしは、わたしの聖なる名をわたしの民イスラエルの中に知らせ、二度とわたしの聖なる名を汚させない。諸国の民は、わたしが主であり、イスラエルの聖なる者であることを知ろう。

主は、ゴグに立ち向かわれ、それからその武器を無効化し、そしてその死体を鳥獣の餌食にすると言われています。この武器の処理と死体の処理を主は生々しく、エゼキエルに幻で伝えます。ここでのもう一つの新しい情報は、主が火を降らせる時に攻めてきた軍隊だけでなく、ゴグの故郷であるマゴグ、そして島々とありますが、攻めてきた国々全体と地の果てにまで火が降るということでありましょう。この出来事を主は、単なる地域紛争の一つにするおつもりはありません。このことによって、二つの目的を果たしたいと願われています。一つは、イスラエル人が主の聖なる名を知ることです。彼らを主が物理的に救われることで、彼らが聖なる御名を知ることができるにすためです。罪を悔い改め、罪から離れるようにするためです。そしてもう一つは、イスラエルの神の御名を知らない諸国の民が、この方だけが主であることを知るためです。

2C 武器を焼却する住民 8-10

39:8 今、それは来、それは成就する。・・神である主の御告げ。・・それは、わたしが語った日である。39:9 イスラエルの町々の住民は出て来て、武器、すなわち、盾と大盾、弓と矢、手槍と槍を燃やして焼き、七年間、それらで火を燃やす。39:10 彼らは野から木を取り、森からたきぎを集める必要はない。彼らは武器で火を燃やすからだ。彼らは略奪された物を略奪し返し、かすめ奪われた物をかすめ奪う。・・神である主の御告げ。・・

イスラエルの住民はこれから、武器を焼却することと、もう一つ死体を火葬することに携わっていきます。ここでは七年間もかけて、武器を焼却するのです。ここには、二つの目的があります。一つはイスラエルの人々が、もう自分を脅かすものはいないという現実を理解するためです。出エジプトのことを思い出してください。主は、エジプト人の軍隊が紅海で沈んだのを見ました。戦車が海の中に沈み、おそらく残骸の一部は浮かんで来て、あるいは岸辺にたどり着いたことでしょう。その凄惨な光景を見て、確かに主が自分たちを救われたということを確認するためです。そのことによって、主が聖なる方であることを自分たち自身が知り、御名を汚すようなことをしないためです。もう一つはここに書いてある通りです。「略奪された物を略奪し返し、かすめ奪われた物をかすめ奪う」ということです。ゴグが行なったことを、ゴグはその報いを受けているということです。彼らがかすめ奪ったので、今、イスラエルによってかすめ奪われているのです。

2B 死体処理 11-20

1C 埋められる谷 11-16

39:11 その日、わたしは、イスラエルのうちに、ゴグのために墓場を設ける。それは海の東の旅人の谷である。そこは人が通れなくなる。そこにゴグと、そのすべての群集が埋められ、そこはハモン・ゴグの谷と呼ばれる。39:12 イスラエルの家は、その国をきよめるために、七か月かかって彼らを埋める。39:13 その国のすべての民が埋め、わたしの栄光が現わされる時、彼らは有名になる。・・神である主の御告げ。・・39:14 彼らは、常時、国を巡り歩く者たちを選び出す。彼らは地の面に取り残されているもの、旅人たちを埋めて国をきよめる。彼らは七か月の終わりまで捜す。39:15 巡り歩く者たちは国中を巡り歩き、人間の骨を見ると、そのそばに標識を立て、埋める者たちがそれをハモン・ゴグの谷に埋めるようにする。39:16 その町の名はハモナとも言われる。彼らは国をきよめる。

ここの「海」とは死海のことです。そして、「旅人の谷」とありますが、これは「アバリムの谷」と書かれています。死海の東に、アバリムという高地があります。ちょうどモーセがネボ山から、約束の地を眺めましたが、そのネボ山の地域一帯がアバリムです(民数 33:48)。アバリムの谷というのは、つまり、モーセたちがヨルダン川の東岸にまで来た、あのモアブの平原のことです。そして、そこであのバラムの事件が起こりました。とんでもない数の死体が転がっている中で、イスラエルのすぐ東の所に死体を運んでいくのです。

そしてユダヤ人にとって律法で死体に触れば汚れるとあるので、その死体処理には細心の注意を払いました。全イスラエル住民が白骨化した死体を見つけたら、当局に通告するようにしています。そして担当者がやってきてそこに標識を立てます。そして他の死体を運び出すチームがそこから運んでいくということです。このようにして、イスラエルの土地が死体によって、儀式的に汚れることのないように、清めを行なうようにしています。

2C 鳥獣への捧げ物 17-20

39:17 神である主はこう仰せられる。人の子よ。あらゆる種類の鳥と、あらゆる野の獣に言え。集まって来い。わたしがおまえたちのために切り殺した者、イスラエルの山々の上にある多くの切り殺された者に、四方から集まって来い。おまえたちはその肉を食べ、その血を飲め。39:18 勇士たちの肉を食べ、国の君主たちの血を飲め。雄羊、子羊、雄やぎ、雄牛、すべてバシヤンの肥えたものをそうせよ。39:19 わたしがおまえたちのために切り殺したものの脂肪を飽きるほど食べ、その血を酔うほど飲むがよい。39:20 おまえたちはわたしの食卓で、馬や、騎手や、勇士や、すべての戦士に食べ飽きる。..神である主の御告げ。..

非常に凄惨な光景であります。しかし主は、これをご自分の聖さを示すために行われています。それは何か？ゴグが、イスラエルの財産や家畜を自分の食べ物にしようとしていました。しかし、今、彼自身が食べ物にされているのです。自分の行なったことの種を自ら刈り取っています。自分が裁くことにしたがって、同じ量りで裁かれています。そして主はこれを、ご自身に対するいけにえとしておられます。ここに書かれてある表現は、幕屋や神殿におけるいけにえの儀式を思い出すものです。家畜をほふって、血を流し、その肉と脂肪を祭壇で焼いて、火によるさげ物をしますが、それを今、これらの死体によって行なっているのです。これは単なる、生々しい凄惨な光景ではなく、ご自分のものに触れる者がこのようになるという、主の聖なる姿を示すものだからです。

3B 主を知る民 21-29

39:21 わたしが諸国の民の間にわたしの栄光を現わすとき、諸国の民はみな、わたしが行なうわたしのさばきと、わたしが彼らに置くわたしの手とを見る。39:22 その日の後、イスラエルの家は、わたしが彼らの神、主であることを知ろう。39:23 諸国の民は、イスラエルの家が、わたしに不信の罪を犯したために咎を得て捕え移されたこと、それから、わたしが彼らにわたしの顔を隠し、彼らを敵の手に渡したので、彼らがみな剣に倒れたことを知ろう。39:24 わたしは、彼らの汚れとそむきの罪に応じて彼らを罰し、わたしの顔を彼らに隠した。

主がゴグを裁かれる働きを行われた後に、世界中の国民が、そしてイスラエルの民自身が、主なる神がおられるということ、そしてこれまで起こったことの意味、神の目から見た歴史的意味を知ることになります。イスラエルがなぜ、自分たちの国々にいたのか、離散していたのか？それは、主なる神に対して罪を犯していたので、主が敵の手に渡しておられたのだ、ということを知ることになります。たとえ同じものを見ていても、霊の目に覆いがかかっていると見えません。「2コリント 4:3-4 それでもなお私たちの福音におおいが掛かっているとしたら、それは、滅びる人々のばあいに、おおいが掛かっているのです。そのばあい、この世の神が不信者の思いをくらませて、神の私たちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです。」

39:25 それゆえ、神である主はこう仰せられる。今わたしはヤコブの捕われ人を帰らせ、イスラエ

ルの全家をあわれむ。これは、わたしの聖なる名のための熱心による。39:26 彼らは、自分たちの地に安心して住み、彼らを脅かす者がいなくなるとき、わたしに逆らった自分たちの恥とすべての不信の罪との責めを負おう。39:27 わたしが彼らを国々の民の間から帰らせ、彼らの敵の地から集め、多くの国々が見ている前で、彼らのうちにわたしの聖なることを示すとき、39:28 彼らは、わたしが彼らの神、主であることを知ろう。わたしは彼らを国々に引いて行ったが、また彼らを彼らの地に集め、そこにひとりも残しておかないようにするからだ。39:29 わたしは二度とわたしの顔を彼らから隠さず、わたしの霊をイスラエルの家の上に注ぐ。・・神である主の御告げ。・・」

ようやく、ここで主の救いのご計画が書かれています。ゴグの侵攻からイスラエルを救われることによって、まだ世界に離散しているユダヤ人を神は連れて帰らせてくださいます。前々からいたイスラエルの住民に加えて、最終的には全ての人に戻って来ることができるようになっていきます。これが、主ご自身が確かに、昔から語られていた神である、つまり聖書の神であることを現わし、その聖なる名を示すためにそのことを行われるのです。もう脅かす人がいないということが分かったことによって、彼らは主なる神こそが自分を救う方である事を知るようになります。それまでは、自分に頼っていたのですが、主により頼まないといけないことを知ります。それでこれまで行っていたことを恥じるようになるのです。

そして主の御霊を注がれるのです。ですから、彼らがイスラエルの地に戻ってきて、ゴグの侵攻があって、そしてそのことによって主なる神を知りますが、そこで御霊が注がれます。イスラエルの中に救いがこのようにして起こされるのです。もしこの出来事がハルマゲドンであれば、大患難の終わりにこの出来事があると言えるでしょう。もしこれが患難期の前であるならば、段階的にイスラエル人の間に霊的な覚醒があると言えるでしょう。こうやって、主は悪の勢力を倒すことによって救いを見せ、御霊を注がれることによって人々を清められるのです。

ところで私たち異邦人に対する神の働きかけと、イスラエルを救うという働きかけの兼ね合いについて考えたいと思います。ローマ 11 章 25-27 節を読みしたいと思います。「兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。こう書かれているとおりです。『救う者がシオンから出て、ヤコブから不敬虔を取り払う。これこそ、彼らに与えたわたしの契約である。それは、わたしが彼らの罪を取り除く時である。』」主が初めに来られた時には、ユダヤ人は福音に対して往々にして敵対的でありました。パウロが福音を宣べ伝えたら、ユダヤ人がそれに敵対し、異邦人が受け入れていきました。しかし、パウロは異邦人の完成のなる時までであると示されていたのです。そして異邦人の救いが完成する頃に、今度はイスラエルへの働きかけを主が行なわれるということです。

ですから今、私たちは二つのことを見えています。一つは、主が急いで、異邦人の間で福音を広げる働きをされているということ。世界各地で、イエス様を信じる大覚醒が起こっています。アフリカ、アジア、中東、中南米で起こっています。そして、もう一つはイスラエル人の間に救いの働きを少しずつですが、行なわれ始めていることです。今、この異邦人の救いの完成とイスラエルの救いの働きの始まりの中間点にいるのです。

そして聖霊の働きは、不法の人、反キリストが現れるのを妨げている働きを一部に持っています。「2テサロニケ 2:7 不法の秘密はすでに働いています。しかし今は引き止める者があって、自分が取り除かれる時まで引き止めているのです。」世に災いが下ります。神が怒りを示されます。けれども、神は悪人にも義人に対するのと同じように、太陽の恵みにあずかせているように、今も恵みによって人々を救いたいと願われています。それで聖霊によって私たち教会を建てておられます。もし教会がこの世から取り除かれたら、その時は悪魔が最後のあがきを行ない、反キリスト、荒らす憎むべき者によって世界が最大の患難の中に入ります。ですから、私たち教会が主によってどのようにたっているのかがお分かりになるでしょう。

主よ来りませ、マラナタです。そして、聖霊で満たしてください、という祈りも捧げたいと思います。